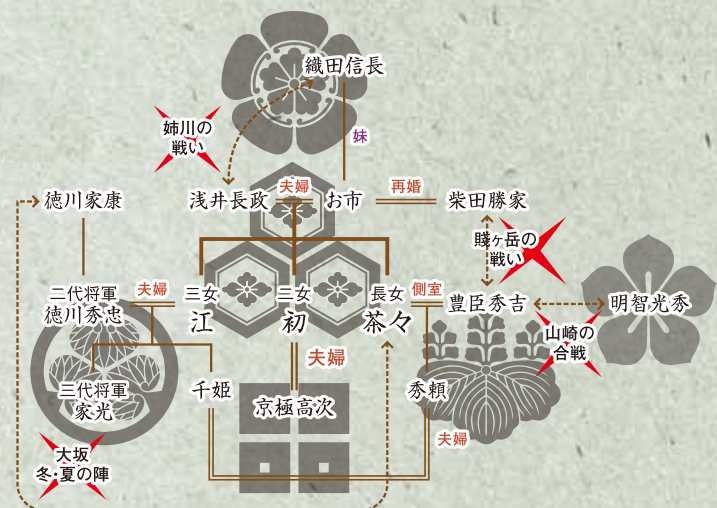


## 浅井氏

浅井氏は、小谷城西麓の丁野(ようの)を本拠とした士豪で北近江の守護大名京極氏に仕えていました。大永3年(1523)浅井亮政ら家臣が京極氏の跡目争いに乗り京極氏を追放。やがて主導権を握った浅井氏が支配するようになり「北近江」という交通の要所をおさえました。三代・浅井長政は織田信長の妹・お市を妻にむかえ信長と同盟を結びましたが、信長が浅井氏と同盟関係にあった朝倉氏を攻めたことから信長との関係に亀裂が生じ、刃を交えることとなり居城である小谷城にて最期を迎えました。浅井氏は、亮政・久政・長政の三代約50年で滅びてしまいましたが、長政とお市の間に生まれた浅井三姉妹(茶々・初・江)はそれぞれ波瀾万丈な人生をおくり、歴史の舞台に影響を与えました。

## 小谷城とは

小谷城(おだにじょう)は標高495mの小谷山に築城された中世山城です。中世五大山城にも数えられ、浅井氏三代(亮政・久政・長政)の居城でした。1573年に織田信長との戦いに敗れ落城しましたが、現在でも土塁や曲輪、石垣が残り国の史跡に指定されています。



### 人物相関図

浅井三姉妹とは、浅井長政と織田信長の妹・市との間に生まれた3人の娘、茶々、初、江のことです。それぞれ豊臣秀吉・京極高次・徳川秀忠の妻(正室・側室)となり、その後、天下をめぐる豊臣家と徳川家の天下の覇権争いに深く関わりました。



## 小谷城の戦い

元亀元年(1570)の姉川の合戦にて織田信長に敗れた浅井長政は、小谷城に籠城し信長軍と対峙しましたが周辺の支城は落とされ小谷城は孤立することになりました。長政の要望を受け朝倉義景が小谷城の北方に布陣する一方で信長は虎御前山に城を築き布陣を整えました。形勢不利と見た朝倉軍は越前に撤退、そこを信長軍に強襲され越前にて朝倉氏は滅亡しました。その後小谷城へ戻った信長軍は秀吉が小丸を攻め、長政の父・久政が自害。そして本丸への攻撃がはじまりました。長政は正室お市と娘の三姉妹を信長のもとへ送り、激闘を繰り広げましたが天正元年(1573)9月1日赤尾屋敷内にて自害しました。



## 小谷城周辺MAP



|          |     |         |       |        |            |      |    |     |     |     |    |     |     |     |    |
|----------|-----|---------|-------|--------|------------|------|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| 吹田 I.C.  | 京都市 | 吹田 I.C. | 37km  | 72.5km | 小谷城 S.I.C. | 18km | 河毛 | 16分 | 新幹線 | 30分 | 京都 | 55分 | 新快速 | 30分 | 大阪 |
| 東京 I.C.  | 名神  | 米原 I.C. | 348km | 80km   | 北陸         | 18km | 米原 | 30分 | 新幹線 | 2時間 | 京都 | 32分 | 新快速 | 30分 | 東京 |
| 金沢西 I.C. | 北陸  | 福井 I.C. | 75km  | 50km   | 北陸         | 30km | 敦賀 | 30分 | 北陸線 | 32分 | 福井 | 32分 | 北陸線 | 50分 | 金沢 |

河毛駅ではレンタサイクルを行っています  
詳しくはお問合わせください→TEL.0749-78-2280

北びわこの楽しい観光情報はWebで!  
<http://kitabiwako.jp/>

北びわこ観光 検索



滋賀・びわ湖

戦国史跡

# 小谷城跡

中世五大山城に  
数えられる  
難攻不落の城

北びわこの楽しい観光情報はWebで!  
<http://kitabiwako.jp/>

北びわこ観光 検索





# 史跡紹介



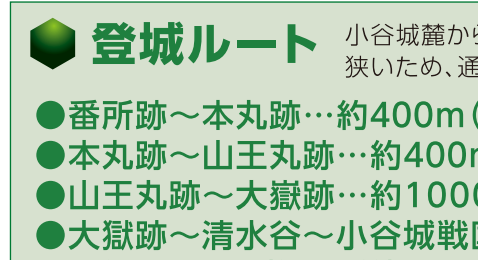
城郭主要部への入口であり検問所があった場所。城への出入りを厳重にチェックしていた。



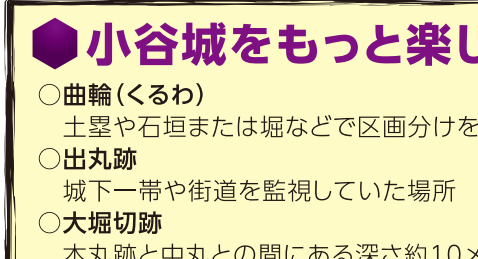
小谷城攻めの際、信長が陣を張った虎御前山を眼下に見ることができ、合戦時の雰囲気を感じることができる。



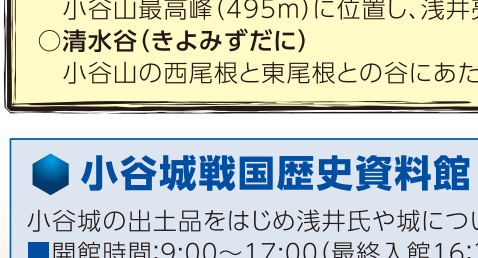
三方向を高い土塁で囲まれ、名前の通り馬屋があったかは不明だが中央には井戸があった。



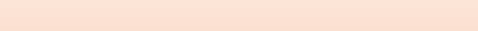
小谷城随一のパノラマが広がり、巨大な小谷城址碑や浅井氏家臣団の供養塔がある。



桜馬場跡と大広間跡との間に位置し、両側には巨石を構え、今は跡のみだが、当時の大きさに圧倒される。



別名千畳敷とも呼ばれる小谷城最大の曲輪跡。礎石の跡が今もなお残っている。



大広間の奥にあり、天守など城の中心となる建物があったとされる場所。



家臣である赤尾氏の屋敷跡。小谷城の戦いの際に浅井長政が自刃した場所と伝わる。



日吉山王権現が祀られていたところでの名がついた。大石垣と呼ばれる石垣が現存する。



小谷城麓から中腹(番所跡付近)までの約1.6kmは林道が整備され車の通行が可能ですが、道幅が狭いため、通行の際はご注意ください。

- 番所跡～本丸跡…約400m(約20分)
- 本丸跡～山王丸跡…約400m(約30分)
- 山王丸跡～大嶽跡…約1000m(約60分)
- 大嶽跡～清水谷～小谷城戦国歴史資料館…約1500m(約80分)



○曲輪(くるわ) 土塁や石垣または堀などで区画分けをした場所のこと。

○出丸跡 城下一帯や街道を監視していた場所

○大堀切跡 本丸跡と中丸との間にある深さ約10メートル、幅約15メートルの巨大な堀切跡。本丸を境にして上部と下部とを隔てる役目があった。

○大嶽城跡(おおづくじょうあと) 小谷山最高峰(495m)に位置し、浅井亮政の築城当時には本丸があったと推測される。

○清水谷(きよみずだに) 小谷山の西尾根と東尾根との谷にあたり家臣団の屋敷があった。



小谷城の出土品をはじめ浅井氏や城について詳しく展示しています。スタンプや御城印はコチラ

■開館時間:9:00~17:00(最終入館16:30) ■入館料:高校生以上300円、小中学生150円

■休館日:毎週火曜日(火曜日が祝祭日の場合は水曜日)、年末年始



別名千畳敷とも呼ばれる小谷城最大の曲輪跡。礎石の跡が今もなお残っている。



日吉山王権現が祀られていたところでの名がついた。大石垣と呼ばれる石垣が現存する。



家臣である赤尾氏の屋敷跡。小谷城の戦いの際に浅井長政が自刃した場所と伝わる。



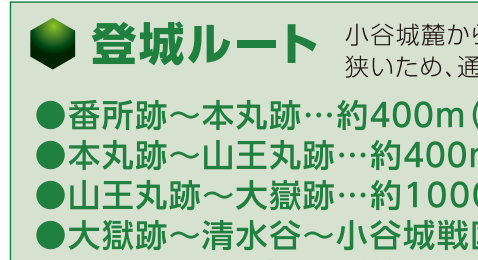
大広間の奥にあり、天守など城の中心となる建物があったとされる場所。



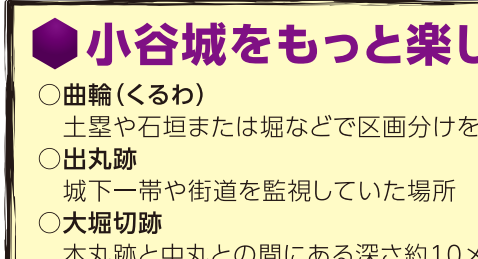
桜馬場跡と大広間跡との間に位置し、両側には巨石を構え、今は跡のみだが、当時の大きさに圧倒される。



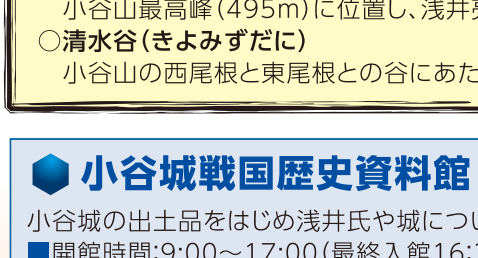
小谷城随一のパノラマが広がり、巨大な小谷城址碑や浅井氏家臣団の供養塔がある。



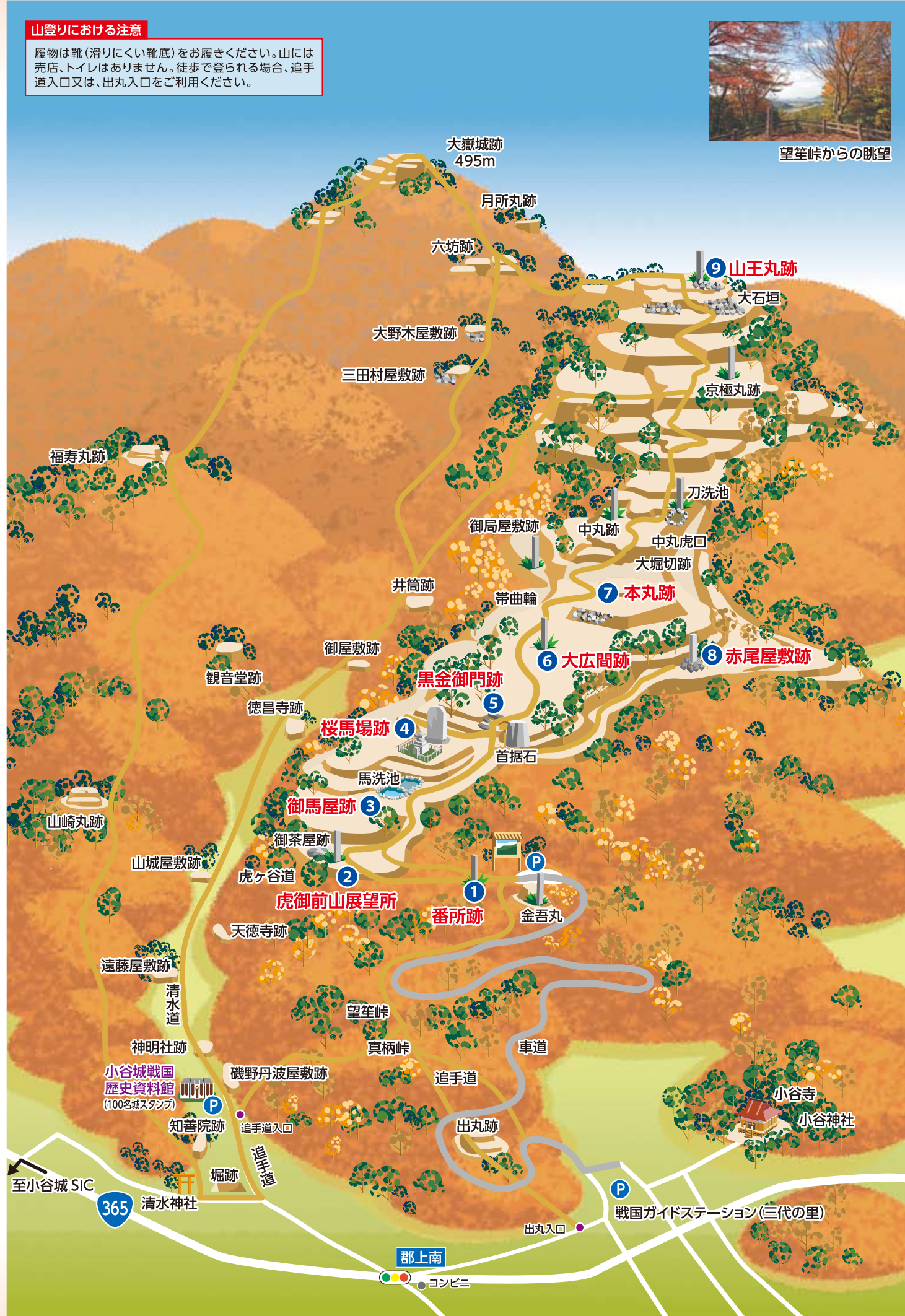
三方向を高い土塁で囲まれ、名前の通り馬屋があったかは不明だが中央には井戸があった。



小谷城攻めの際、信長が陣を張った虎御前山を眼下に見ることができ、合戦時の雰囲気を感じることができる。



城郭主要部への入口であり検問所があった場所。城への出入りを厳重にチェックしていた。



マップイラスト/水田デザイン

